

「防災研究セミナー」開催 2003年十勝沖地震災害・検証

■はじめに

2003年12月8日に北海道技術士センター防災研究会（会長 高宮則夫・副会長 松井義孝）では、平成15年度 第2回「防災研究セミナー」を北海道開発土木研究所において開催致しました。本セミナーは、独立行政法人 北海道開発土木研究所との共催で行いました。

セミナーテーマは、記憶に新しい2003年十勝沖地震災害です。十勝沖地震は、9月26日04時50分頃北海道十勝沖を震源（深さ42km、マグニチュード8.0）に発生しました。この地震で、帯広・釧路管内で震度6弱が観測されたほか、北海道、東北、関東地方で震度1から5強が観測されました。今回の地震は、北海道では1994年10月4日の北海道東方沖地震以来の大規模なものでした。この地震により、土工・構造物に多くの被害が発生しました。本セミナーは、防災の立場から2003年十勝沖地震の被災検証をおこなうものです。

本セミナーには、防災研究会会員を含めて70名を超す多くの技術者の方々に参加していただきました。冒頭、高宮防災研究会会長より、防災研究セミナーの主旨説明の開会挨拶があり、引き続き、防災研究会情報系部会から防災アンケート報告ならびに講演会に入りました。なお、本セミナーはCPD対応の一環でもあります。

■防災アンケート ～十勝沖地震を経験して～

地震直後に十勝沖地震経験者を対象に実施した防災アンケートの結果を、防災研究会情報系部会 森幹事より報告して頂きました。アンケートの結果、地震情報の入手方法ではテレビ・ラジオなどのメディアの利用が大半であることや情報伝達としてのインターネット、交通連絡網を今後有効活用してい

く必要があることなど多くのことが明らかとなりました。防災研究会ではこれらの成果を踏まえ、今後の確な防災対応のあり方を市民に発信していきたいと考えております。

■講演会

防災研究会情報系部会からの報告に引き続き講演会に入りました。講演テーマ・講師は以下のとおりです。

講演 1

十勝沖地震災害調査・検証〈地盤関係〉

北海道開発土木研究所 土質基礎研究室長

西本 聡 氏

講演 2

十勝沖地震災害調査・検証〈構造物関係〉

北海道開発土木研究所 構造研究室長

池田憲二 氏

西本室長・池田室長には忙しい中の講演を引き受けていただき深く感謝申し上げます。



写真-1 セミナーの状況（森幹事報告）



写真-2 講演1 (西本土質基礎研究室長)



写真-3 講演2 (池田構造研究室長)

講演1では、西本土質基礎研究室長から、2003年十勝沖地震による十勝・釧路地方の主に河川堤防や道路盛土の被災の報告がありました。被害状況は主として、のり面のすべり、液状化、路面の亀裂・段差・陥没であり、一般国道では15路線96箇所では被害が発生したとのこと。平成5年の釧路沖地震との違いは、軟弱地盤上の盛土高さ3m程度の低盛土の被害が多く、それは震源からの距離や地震動そのもののメカニズムの違いのためという理由の説明がありました。今後、さらに地盤に関する情報収集がなされ被災の因果関係の整理や的確な防災対策が講じられるものと考えます。

講演2では、池田構造研究室長から、2003年十勝沖地震による構造物、特に橋梁の損傷とその対策工に関する報告がありました。特に大きな被災を受けた橋梁は、日高自動車道静川高架橋、一般国道242号千代田大橋、一般国道336号十勝河口橋・歴舟橋です。その変状は主に支承部や下部工躯体に確認されており、早期の復旧を行うため現行耐震基準に則った動的解析などの検証から、速やかな対策工が講じられたとのこと。今後、現場条件に応じた既設橋の耐震補強などが実施されていくものと考えます。

なお、十勝沖地震の被災調査報告については、今回の講演テーマ以外の分野も含めて、北海道開発土木研究所月報2003特集号に詳細が記載されておりますので、御参照下さい。

講演の最後に質疑の時間が設けられました。活発



写真-4 情報交換会 (開土研 西村道路部長 挨拶)

なディスカッションがなされ、防災認識を新たにすべく非常に有意義な防災研究セミナーになったと考えています。

今後も防災研究会では、研究成果の社会への提言を目的に、防災に関する認識向上の視点から幅広く研究活動を進めていきたいと考えております。

■情報交換会

セミナー終了後は、会場をかえて約40名の出席者による情報交換会が催されました。冒頭、日本技術士会 大島北海道支部長、北海道開発土木研究所 西村道路部長から挨拶を賜り、途中多くの人たちにも近況報告をして頂きました。最後まで和やかでかつ有意義な交流会でありました。

(文責：防災研究会幹事長 富澤 幸一)